



助け合うということ

浪打小学校 4年 古川玲奈

私は、犬が大好きです。私の学校に目が見えない人と、盲導犬が来て、体育館でみんなで勉強会をしました。ハーネスをつけた犬は、さわいだり、むだに動いたりせず、飼い主の言うことをしっかり聞いて、人の目の代わりをして、人間を助けてくれます。

私は、2年生の時から、北東北災害救助犬のボランティア活動をしています。災害救助犬というのは、地しんや、洪水などの大きな災害があった時に、家の下じきになったり、行方不明になった人を探す犬です。文太という、年寄りの災害救助犬がいて、その犬には、片目がありません。東日本大しん災の時に、岩手県や宮城県で、一生けん命にそうさく活動をし、多くの人を助けた後に、文太は片目がガンになり、手じゅつをしたそうです。

今は、片方しか目がない文太ですが、やさしいおじいさんが世話をしてくれているので、他の救助犬たちと、訓練をしたり、老人ホームなどに行って、セラピードッグとして、元気に暮らしています。

「文太は、人間のために一生けん命やってくれた。今度は、人間たちが文太のために、一生けん命、支えていかなければならないよ。」

と、訓練士のおじいさんが言います。私も文太に会うと、「目が見えなくてかわいそうだなあ。」と最初は思っていました。文太をなでるとしっぽを回して喜ぶし、すごい速さで仲間の犬たちと走り回ります。文太は、片目がなくかわいそうな犬ではなく、みんなに支えられて幸せな犬だと、私は考えるようになりました。

困っている時、助けて暮れる誰かがいる。子供や大人にとっても、赤ちゃんやお年寄りにとっても、そして、片目を失った文太のような犬にとっても、助けてもらえる事は幸せなことで、大切なことだなあと私は思います。人間も犬も、みんなで助け合う気持ちが、一番大切であり、それが幸せにつながっていくと、私は考えるからです。

私の将来のゆめは、文太のような救助犬を育てるための仕事をする事です。日本では、まだ救助犬も少なく、いろんな仕組みがきちんとできていないと聞いています。人と人、人と犬とがみんなで協力できる地域の仕組みが「共同募金」などを通じて、しっかり整えられるといいなと思います。

これからも、一人一人が、優しい気持ちを大切にして、みんなで助け合い、より良い町になってほしいと思います。そして、人間と犬がもっと楽しく、くらせるようになってほしいです。